

第二十六回 帝國議會 貴族院議事速記録第十三號

明治四十三年三月十五日(火曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第十三號 明治四十三年三月十五日

午前十時開議

- 第一 警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案(政府提出衆議院送付) 第一讀會
- 第二 銃砲火藥類取締法改正法律案(政府提出衆議院送付) 第一讀會
- 第三 耕地整理法中改正法律案(政府提出衆議院送付) 第一讀會
- 第四 災害地地租特別處分法案(政府提出衆議院送付) 第一讀會
- 第五 沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案(政府提出衆議院送付) 第一讀會
- 第六 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(政府提出衆議院送付) 第一讀會
- 第七 遠洋漁業獎勵法中改正法律案(政府提出衆議院送付) 第一讀會
- 第八 立木ノ先取特權ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第九 質屋取締法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第十 行政執行法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第十一 明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第十二 豫約出版法案(衆議院提出) 第一讀會
- 第十三 裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第十四 貴族院伯子男爵議員選舉規則中投票ニ關スル規定改正建議案(子爵曾我祐准君發議) 會 議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

貴族院議事速記録第十三號 明治四十三年三月十五日 議長ノ報告

〔河井書記官朗讀〕

昨十四日本院ニ於テ可決シタル政府提出間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

同日本院ニ於テ否決シタル左ノ衆議院提出案ハ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

裁判所構成法中改正法律案

裁判所構成法中改正法律案

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案

同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案特別委員會

委員長 伯爵松平 賴壽君 副委員長 石井省一郎君

拘留ニ關スル裁判法案特別委員會

委員長 子爵本莊 壽巨君 副委員長 奥山 政敬君

東京都制案外二件特別委員會

委員長 公爵二條 基弘君 副委員長 伯爵柳原 義光君

遠洋漁業獎勵法中改正法律案外一件特別委員會

委員長 伯爵德川 達孝君 副委員長 子爵松平 直德君

皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者ノ戸籍ニ關スル法律案特別委員會

委員長 公爵二條 基弘君 副委員長 富井 政章君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案可決報告書

遠洋漁業獎勵法中改正法律案可決報告書

請願委員會特別報告第五號

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

耕地整理法中改正法律案

災害地地租特別處分法案

沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

罹災救助基金法中改正法律案

東京市區改正條例中改正法律案

登錄稅法中改正法律案

韓國在勤鐵道院所屬官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、議事日程第一、警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十二日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案

巡查看守退隱料及遺族扶助料法ハ警部補及其ノ遺族ニ之ヲ準用ス

退隱料、一時金及遺族扶助料ノ關係ニ於テハ警部補又ハ巡查ノ勤続年數ハ交互ニ之ヲ通算シ巡查警部補ニ任シ又ハ警部補巡查ニ就職スルトキハ之ヲ勤續ト看做ス

判任以上ノ他ノ文官警部補ニ轉任スルトキハ官廳事務ノ伸縮ニ依リ退官シタルモノト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣男爵平田東助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平田東助君) 本案提出ノ理由ニ付キマシテ一言陳述ヲ致シマス、巡查ノ採用ハ近來ハ愈々益、其困難ヲ感ジマシテ、一旦就職イタシマシタ者モ辭職ヲ申出ル者少ナカラヌヤウナ有様デゴザイマス、警察上、甚ダ困難ヲ感ズル次第デゴザイマス、付キマシテ巡查獎勵ノ一方法ト致シマシテ、巡查定員ノ中ニ於キマシテ其幾分ヲ判任官ト致シ置クコトガ必要デゴザイマスノデ、新ニ警部補ヲ設置スルコトニ致シマシタノデゴザイマス、右ニ

付キマシテ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ヲ之ニ適用イタシタイト考ヘマスルノガ即チ本案ヲ提出イタシタ譯デアリマス、御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○男爵石黑忠惠君 チョット伺ヒマスガ「判任以上ノ他ノ文官警部補ニ轉任スルトキ」ト云フコトガゴザイマスガ、陸軍ノ官吏ナドガ轉任イタシマシタ者ハ、ドウナリマスカ

〔國務大臣男爵平田東助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平田東助君) 御答イタシマスガ……尙ホチョット伺ヒマスデスガ、石黑男爵ハ陸軍ノ下士カラ巡查ニ轉任イタシタモノニ付イテノ御尋ネデゴザイマセウカ

○男爵石黑忠惠君 左様デゴザイマス

○國務大臣(男爵平田東助君) 警部補ニ採用イタシマシタ以上ハ、即チ其警部補ノ退隱料ニ依リマスルノデ、其間ニ於キマシテ若シモ陸軍下士トシテ退隱料ヲ有シテ居リマシタ者ニ付キマシテハ、其恩給ノ額ニ於キマシテ多少ノ高ニ於テ變更ノアルコトハ是ハ無論ノコト、考ヘマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二、銃砲火藥類取締法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

銃砲火藥類取締法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十二日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

銃砲火藥類取締法

第一條 銃砲ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ製造スルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合

二 行政官廳ノ許可ヲ受ケ輸出ノ目的ヲ以テ軍用銃砲ヲ製造スル場合

三 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ非軍用銃砲ヲ製造スル場合
四 行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル軍用銃砲ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合

第二條 火藥類ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ製造シ又ハ變形若ハ修理スルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合

二 行政官廳ノ許可ヲ受ケ輸出ノ目的ヲ以テ軍用火工品ヲ製造シ又ハ變形若ハ修理スル場合

三 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ普通火工品ヲ製造シ又ハ變形若ハ修理スル場合

四 行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合

五 理化學上ノ實驗ノ爲小量ノ火藥類ヲ製造シ又ハ變形若ハ修理スル場合

六 行政官廳ノ許可ヲ受ケ火藥、爆藥ヲ變形シ又ハ修理スル場合

七 第二號又ハ第三號ノ場合ニ該當スル者ニ於テ火藥、爆藥ヲ變形若ハ修理スル場合

前項第一號ノ場合ニ該當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ軍用火藥類ヲ製造スルコトヲ得

第三條 銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四條 行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設クルコトヲ得

製造業者及第二條第二項ノ規定ニ依リ製造ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ヌル者ハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條 銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者

行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條 銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、攜帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍

二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱

三 銃砲、火藥類ノ取扱人ニ關スル事項

四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項

五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ戎器又ハ爆發質物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 第一條、第二條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル

命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ク
爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

〔國務大臣男爵平田東助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平田東助君) 本案提出ノ理由ヲ一言イタシマス、現行ノ銃砲火藥類取締法ハ曩ニ三十二年ニ制定イタシマシタノデゴザイマシテ、爾來十年間ノ經驗ニ徴シマスルト云フト、往々ニシテ規定ノ中ニ不備モアリ、之ガ爲ニ之ニ補ヒヲナス必要ヲ感ジマスルコト少ナカラナイノガ一ツノ理由デゴザイマスルノト、モウ一ツハ銃砲火藥ノ營業ヲ致シテ居リマスル者ニ付キマシテ、其利害ニ鑑ミテ改正ヲ致スベキ必要ガゴザイマスルノト、又近來段々此方面ニ向ッテ學術ノ進歩ニ伴ヒマシテ事實ト規定ト扞格スル所モ亦少ナカラスコトモアルノデゴザイマス、依リマシテ此際之ニ改正ヲ加ヘ、是等ノ不備ヲ補ヒタイト思ヒマスルガ之ヲ提出イタシマシタ理由デゴザイマス、御協賛アラムコトヲ偏ニ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三、耕地整理法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

耕地整理法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十四日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔ハ衆議院ノ修正〕

耕地整理法中改正法律案

耕地整理法中左ノ通改正ス

第十二條中「第十條ノ一乃至第十一條」ヲ「第十條、第十一條及」ニ改ム

第十三條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ地租ノ稅率同一ナラサル土地アルトキハ現地價ニ依リ算出シタル地租ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シ當該地目ノ稅率ヲ以テ除シタル金額ヲ其ノ配賦地價トス

第十四條第二項中「變換シタル土地ニ付テハ工事完了ノ年ヨリ六年目」及「開墾シタル土地ニシテ工事著手ノ年ヨリ」ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ

地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ第二項中開墾地ニ關スル規定ヲ適用セス

第十五條第一項中「地目若ハ地類ノ變換後五年」ヲ削リ第一號中「開墾若ハ地類ノ變換ヲ爲シタル土地、地目ヲ變換シ地價ノ修正ナキ土地」ヲ「開墾ヲ爲シタル土地」ニ改メ第三號中「地目若ハ地類ノ變換後六年目」ヲ削リ第十六條中「地目若ハ地類ノ變換後五年」ヲ削ル

附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 唯今、日程ニ上ボツテ居リマス耕地整理法中改正案以下四案ハ共ニ稅法整理案ニ伴ッテ政府ガ提出シマシタ案デゴザイマス、其中、耕地整理法中改正法律案ハ地租條例ヲ改正イタシマシテ地目變換及地類變換ノ場合ニ於ケル地價ノ修正ヲ致シマス取扱方ヲ改正シマスニ伴ッテ此耕地整理法中改正案ヲ提出シマシタコトデアリマス、政府ノ當初ノ原案ニ依リマス、從前カラ地目變換ヲシテ居ッタモノヲ耕地整理ノ區域ノ中ニ入レマシタ場合、又耕地整理ノ際、地目ノ變リマス場合モ、共ニ直チニ地價ノ修正ヲスル趣意ヲ以テ提出シテ居リマスガ、衆議院ニ於テハ以前ニ既ニ地目ノ變換シテ居ルモノガ耕地整理ノ區域ノ中ニ包含シタナラバ、取扱方ハ地租條例ノ改正通リニ取扱ッテ宜イガ、耕地整理ヲ致スニ際シテ一ノ地目ガ他ノ地目ニ變換スルヤウナ場合ニ於テハ、矢張り是マデ通リ五年間地價ヲ据置イテ低價ノ地價ニ依ッテ地租ヲ取ル利益ヲ享受セシメル方ガ宜イト云フ趣意ヲ以テマシテ、政府ノ提案ニ對シテ第十四條ニ限ッテ修正ヲ加ヘテアルノデアリマス、此點ハ政府ニ於テ衆議院ノ修正ニ同意ヲシテ居ル次第デアリマス、ドウゾ御協賛ニナラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第四、災害地地租特別處分法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

災害地地租特別處分法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十四日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

災害地地租特別處分法

第一條 災害又ハ天候不順ニ因リ府縣及北海道ノ全部又ハ一部ニ互リ收穫

皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ付テハ十年以内ノ期間ヲ以テ年賦延納ヲ許可スルコトヲ得

可スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者其ノ延納期間内ニ於テ同

一田畑ノ地租ニ付再度延納ノ許可ヲ受ケタルニ至リタルトキハ未納ニ係ル前ノ延納年賦金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第三條 本法ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シテ政府ニ出願スヘシ

第四條 本法ニ依リ延納ヲ許可シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セス延納年賦金ヲ免除シタルトキ亦同シ

第五條 本法ニ依ル被害調査中ハ其ノ年地租及延納年賦金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

附則

明治三十四年法律第二十七號及明治三十六年法律第三號ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年法律第三號ニ依リ年賦延納ノ許可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依

賦金ハ之ヲ免除ス
リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 災害ニ罹リマシテ田畑ノ收穫ノ全然取レナカッタ場合ニ於ケル租税ノ取扱方ハ、現行法ニ於テハ二様ニナツテ居リマス。一、デアリマス、即チ水害ニ罹ッテ收穫ノ取レナイ場合ニ於テハ其土地ノ地租ヲ免除スル。二、云フコトニナツテ居リマス、之ニ反シテ其他ノ災害ハ水害以外ノ災害ニ依ッテ收穫ノ取レナイ場合ニ於テハ地租ヲ免除イタシマセズデ延納ヲ許スト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、同ジク災害デアッテ同ジク收穫ノ取レナイ場合ニ於テ其災害ノ種類ガ違フノ故ヲ以テ地租ノ取扱ヲ異ニスルト云フコトハ理由ニ乏シイノデアリマス。政府デハ此度總テ災害ニ罹ッテ收穫ノ取レナイ場合ニ於ケル地租ノ取扱方ハ延納ニ依ッテ之ヲ救済スル、但シ延納シテアルモノガ更ニ再ビ災害ニ罹ッテ收穫ノ取レナイ場合ハ、以前ニ延納ヲ許シテアル地租ヲ免除スル、斯ウ云フ趣意ニ依ッテ改正シヤウト云フ政府ノ原案デアッタノデアリマス、然ルニ衆議院ニ於テハ之ニ修正ヲ加ヘラレテ、如何ナル場合ニ於テモ災害ニ罹ッテ收穫ノ取レナイ場合ニ於テハ免租スルト云フ案ニナツタノデアリマス、此衆議院ノ修正ハ、修正トハ言ヒマスケレドモ、實質ニ於テハ全然、根本カラ政府ノ立テマシタ趣意ヲ覆ヘシテアル譯デアリマシテ、災害地ノ特別處分ニ關シマスルコトニ於テハ永イ沿革ノアルコトデモアリマスシ、又政府ニ於テハ餘ホド考慮ヲ加ヘテ發案シタノデアリマスガ、然ルニ根本カラ修正ニナルト云フコトハ遺憾ナガラ同意ノ出來難イコトデアルト思ウテ居リマス、衆議院ノ修正ニ對シテハ政府ニ於テハ原案ノ方ヲ維持スル説ヲ有ッテ居ルノデアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五、沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十四日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案
沖繩縣ニ於ケル舊慣ニ依ル地租ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免除ス
明治三十七年法律第十三號ハ之ヲ廢止ス

〔政府委員若槻禮次郎演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 沖繩縣ニ於キマシテハ明治三十六年カラ地租條例ヲ施行イタシマシタノデ、之ト同時ニ國稅徵收法ヲ同縣ニ施行シマシタ故ニ、三十六年以後ニ於キマシテハ租稅ヲ滯納シマシタ場合ニ於テソレノ定規ニ依ッテ是ハ窮徴ヲ爲スコトガ出來ルヤウニナツテ居リマス、三十五年以前ノ地租ニ付イテハ舊慣ニ依ッテ徵收スルト云フコトニナツテ居リマス、然ルニ沖繩縣ノ滯納ニ對スル舊慣ト云フモノハ餘ホド慘酷ナモノデアリマシテ、舊慣ハアリマスケレドモ實際之ヲ適用スルト云フノハ如何ニモ忍ビ難イト云フヤウナ制度デアアル爲ニ事實滯納シタ場合ニ於テ徵收スルトガ出來ナンデアリマシタモノガ今日マデ滯ッテ六十萬餘圓アルノデアリマス、然ルニ今之ヲ取ラウト致シマシテモ窮徴手段ノ無イトキノモノデアリマシテ、而カモ今日カラ云フト、ズット以前ノ租稅デアリマス故ニ、此度地租諸稅法ヲ整理シテ參ルニ付キマシテ、此舊慣ニ付イテ取ルベキモノ、滯ッテ居ルモノダケハ免除シテ仕舞フ方ガ適當デアルト云フノデ此法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウゾ御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六、明治四十一年法律第三十七號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

〔小字ハ衆議院ノ修正、ハ同削除ノ符號〕

明治四十一年法律第三十七號中左ノ通改正ス

第一條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス
一 北海道、府縣(沖繩縣ヲ除ク)、沖繩縣ノ區及町村

附加税ノミヲ課スルトキ

宅地地租^{百分ノ十三}千分ノ百三十三
田畑地租^{百分ノ三十二}千分ノ三十二

其ノ他ノ土地地租^{百分ノ二十七}千分ノ二十七

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 毎地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ

地租額[○]宅地ニ在リテハ^{百分ノ十三、田畑地租ニ在リテハ百分ノ三十二、}千分ノ百三十三、其ノ他ノ土地ニ在リテハ^{百分ノ二十七}千分ノ二十七

分ノ二百七十三ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ

宅地地租^{百分ノ九}千分ノ八十九
田畑地租^{百分ノ二十一}千分ノ二十一

其ノ他ノ土地地租^{百分ノ十八}千分ノ百八十二

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 毎地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ

地租額[○]宅地ニ在リテハ^{百分ノ九、田畑地租ニ在リテハ百分ノ二十一、}千分ノ八十九、其ノ他ノ土地ニ在リテハ^{百分ノ十八}千分ノ百八十二ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條中「百分ノ二十五」ヲ「百分ノ十一」ニ、「百分ノ三十五」ヲ「百分ノ十

五」ニ改ム

第三條中「百分ノ十」ヲ「百分ノ五」ニ、「百分ノ三十五」ヲ「百分ノ十七」ニ

改メ左ノ一項ヲ加フ

第二種ノ所得ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

第五條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ地租附加税及段別割ヲ併課シタル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課力制限ニ達シタルトキハ附加税力制限ニ達シタルモノト看做ス其ノ段別割ノミヲ賦課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課力制限ニ達シタルトキ亦同シ

第六條 削除

附 則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ所得税附加税ニ付テハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治四十四年一月一日以後ニ於テ明治四十三年度分地租附加税ヲ賦課スル場合ニ於テハ明治四十三年分ノ定率地租ヲ以テ課税標準トス

明治四十三年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ於テ事業年度ノ終了スル法人ノ所得ニ對シテ所得税附加税ヲ賦課スル場合及明治四十四年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ於テ廢業スル營業ニ對スル營業税附加税ヲ賦課スル場合ニ於テハ本法ニ規定スル制限ニ依ル

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 此法律ハ地方税ノ附加税ニ關スル法律デアリマス……附加税竝ニ非常特別税制限ニ關スル法律デアリマスガ、是ハ政府ガ此度税法ヲ整理スルト云フノデ此直税ノ諸法律ニ對シテ改正ヲ加ヘマシタ結果トシテ非常特別税ト本税トガ一ツニナリマシタモノデアリマスカラ、此合併シタ税額ニ對シテ從前ノ制限ノ儘デ置キマス云フト附加税ノ率ガ大變高イコトニナリマスノデ、本税ト非常特別税ヲ合併シタニ付キマシテ從前ノ税額ダケノ範圍内ニ制限ヲ止メヤウト致シマスルナレバ、自然此制限ノ率ヲ低メマス必要ガアルノデアリマシテ、ソレガ爲ニ本案ヲ提出シタノデアリマスガ、政府ノ税法整理案ハ衆議院ニ於テ地租ニ對シテ修正ガアリマスシ、又營業税ニ於テモ修正ガアッタモンデアリマスカラ、之ニ伴ッテ自ラ制限ノ率ガ變ラナケレバナリマセヌノデ、即チ本法ニ對シテ衆議院ガ修正ヲ加ヘマシタ結果トシテ更ニ又此附加税ノ制限率ニ付イテ修正ヲ加フル必要ガ起ッテ修正

シタノデアリマスカラ、無論此衆議院ノ修正ハ相當ナコトデアアルノデアリマス、ドウゾ御協賛アラムコトテ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七、遠洋漁業獎勵法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

遠洋漁業獎勵法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十四日

右特別委員長

伯爵 德川 達孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵德川達孝君演壇ニ登ル〕

○伯爵德川達孝君 遠洋漁業獎勵法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道申シマス、此委員會ハ昨日正副委員長ノ選舉ヲ行ヒマシテ、引續キマシテ會議ヲ開キマシタ、政府委員ヨリ詳細ノ説明ガゴザイマシタ、本案ノ改正ニナルベキ要點ハ是マデ獎勵金ノ十五萬圓ト云フノヲ二十萬圓ニ増スト云フノガ目的デアアル、其目的ハ如何ナル譯カト申セバ、遠洋漁業ノ指導監督、遠洋漁業練習生ノ養成及漁港ノ調査、若クハ設計ノ爲ニ要ルノデアリマス、ソレカラ漁港ヲ將來改築スルニ付イテハ莫大ナ經費ガカ、ル、併ナガラソレニ掛カルニ付イテ調査スルト云フコト、設計ト云フコトガ最も必要デアアルト云フノデ、之ガ爲ニ本年此十五萬圓ヲ二十萬圓ニシナケレバナラヌト云フ必要ガアル譯デアリマス、ソレニモウ一ツハ新刑法ノ實施ニ伴ヒマシテ、第十四條中ニ即チ是マデハ三年以下ノ重禁錮ト、又千圓以下ノ罰金ト云フノヲ、三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ト云フ風ニ改メ、モウ一ツハ現行法ノ二十一條ニ「本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ八箇年間之ヲ施行ス」ト斯ウ申スノヲ「十五箇年」ニ改メルノデ、詰リ獎勵金ノ十五萬圓ヲ二十萬圓ニスルノト、此漁港ノ調査ト、禁錮ノ所ヲ懲役ニスルコト、ソレカラ年限ヲ延バスト云フ、是レダケガ本案ヲ改正スル要點デアアルノデアリマス、委員會ニ於テハ質問モゴザイマシタ、委細ハ速記録ニ讓リ申シタイノデアリマスガ、生憎、速記録ガゴザイマセヌ、速記録ガゴザイマセヌカラ御覽ヲ願フコトハ出

來マセヌケレドモ、併シ茲デ申述ベル程ノサウ澤山ノ質問モゴザイマセヌデ、詰ル所ガ其質問ノ要點ハ漁港ノ調査若クハ設計ト云フコトモアルシ、隨分是ハ大キナコトデアアル、然ルニ僅カ五萬圓ノ金ヲ増シタダケ行クモノデアアルカト云フヤウナコトニ付イテ質問ガゴザイマシタ、其時ニ政府委員ノ答ニハ成ルホド漁港ヲ改築スルトカ改修スルトカ云フコトハ、ソレハナカク費用ガカ、ルノデアアルガ、此度ノ漁港ノ調査ハ詰リ改築スル爲ノ調査ヲ致シマス、サウ云フコトデアアル故ニ五萬圓ノ増加デ差支ナイト云フ答辯ガゴザイマシタ、ソレヨリ討論ニ移リマシタ所ガ、別ニ議論モゴザイマセヌデ、本案ハ誠ニ適當ナ改正デアアルト云フ意味ヲ以チマシテ、全會一致ヲ以テ可決スベキモノト議決ニナッタ次第デゴザイマスカラ此段御報告ヲ申シマス、終リニ臨ンデ一言申シマス、此法律案ニ付キマシテ御不審ノ所ハドウゾ政府委員ニ御尋ネテ願ヒマス、ソレニ又政府委員同様ト申スカ或ハ、ヨリ以上御委シウゴザイマセウガ、村田保君ガ此委員ノ御一人デモゴザイマスカラ、ドウゾ村田君ニ御尋ネニナリマスレバ委シク御分リニナラウト存ジマス、私ハホンノ經過ダケヲ簡單ニ御報告ヲシテ置クニ止メテ置キマス

○村田保君 本案ハ極メテ簡單明瞭ナ案デゴザイマスカラシテ、ドウゾ讀會ヲ省略サレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵德川達孝君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○田中芳男君 政府委員ニ御尋ネシタウゴザイマスガ、政府委員ハ御居デ、ゴザイマスカドウカ知リマセヌガ、此十五萬圓ヲ二十萬圓ニスルニ付イテハ五萬圓ガ立ドコロニ來年度カラ要ル譯デアリマスガ、是ガ通過シタラ直チニ追加豫算ガ出マヌヤウナコトニナリマスルヤラ、ドウ云フコトニナリマスカ

〔政府委員道家齊君演壇ニ登ル〕

○政府委員(道家齊君) 唯今御尋ネノ十五萬圓ヲ二十萬圓ニ改メマシテ、其五萬圓ハ來年度ニ於テハ追加豫算デ提出スルヤ否ヤト云フ御尋ネデスガ、先ヅ來年度ハ此十五萬圓ノ範圍内デ經費ノ支辨ヲ致シマシテ、追ッテ必要ニ應ジマシテ、此増額ヲ請求スル積リデゴザイマス、先ヅ來年度ノ所デハ十五萬圓以内デ此調査ニ付イテノ著手ヲ致シマス積リデゴザイマス

○子爵曾我祐準君 讀會省略贊成

○田中芳男君 讀會省略ニ賛成イタシマス

○伯爵寺島誠一郎君 讀會省略賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○子爵本莊壽巨君 讀會省略賛成

○子爵板倉勝達君 讀會省略賛成

○男爵赤松則良君 賛成

○男爵高木兼寛君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 村田君ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガゴザイマシタ、村田君ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 本案御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 第八、立木ノ先取特權ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

立木ノ先取特權ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十三年三月十二日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

他人ノ土地ノ上ニ立木ヲ有スル者カ土地ノ所有者ニ對シ樹木伐採ノ時期ニ於テ其ノ樹木ノ價格ニ對スル一定ノ割合ノ地代ヲ支拂フヘキ契約ヲ爲シタルトキハ土地ノ所有者ハ地代ニ付其ノ立木ノ上ニ先取特權ヲ有ス
前項ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス但シ民法第三百二十九條第二項但書ノ適用ヲ妨ケス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○田中芳男君 是ハ政府案デハゴザイマセヌケレドモ、政府委員ガ御居デナサルナラバ、ドウゾ一應御意見ヲ伺ヒタウゴザイマス

〔政府委員平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平沼騏一郎君) 衆議院ニ於キマシテ本案ヲ提出ニナリマシタ理由ヲ一應申上ゲテ置キマス、御承知ノ如ク地方ニ依リマシテハ他人ノ土地ノ上ニ殖林ヲ致シマスル慣例ノアル所ガアルノデアリマス、斯ノ如キ地方ニ於キマシテハ立木ノ所有者ト土地ノ所有者ト變ッテ居リマス、ソレ故ニ立木ノ所有者ハ土地ノ所有者ニ對シマシテ地代ヲ拂ハナケレバナラナイノデアリマス、然ルニ此地代支拂ノ方法ガ一般ノ場合ノ如ク年々一定ノ金額ヲ支拂フト云フニ非ズシテ、立木伐採ノ時期ニ當リマシテ、其立木ノ價格ニ對スル一定ノ割合ヲ以テ其地代ヲ支拂フト云フ慣習ノアル所ガアルノデアリマス、奈良縣ノ吉野地方ニ於キマシテハ、之ヲ歩口ト稱ヘテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ場合ニ於キマシテ、最初ノ立木ノ所有者ガ伐採期マデ變リマセヌキニハ別ニ差間モゴザイマセヌガ、昨年御協賛ヲ經マシタル所ノ立木ニ關スル法律ニ據リマスルト、立木ハ土地、竝ニ地上權ト分割イタシマシテ賣買讓與ガ出來ルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、斯ク相成リマスルト云フト、立木ノ伐採期ニ當リマシテ、地代ノ請求ハ最初ノ地上權者ニ對シテ出來マスルノデアリマスルケレドモ、其肝腎ノ立木ハ既ニ他ニ轉々シテ居ルト云フコトニナル、斯ノ如キ場合ニ地上權者ガ無資力ニデモナッテ居リマスルト云フト、地主ハ實際權利ハ有チナガラ其權利ノ完全ナル實行ハ出來スト云フコトニナルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ地主ヲ保護イタシマスル爲ニ、其立木ノ上ニ先取特權ヲ有タセマシテ、他ノ權利者ニ先ダッテ其立木ヨリ地代ノ請求權ヲ満足セシムルコトガ出來ル、斯ウ云フ趣意ヲ以テ提出セラレマシタル所ノ法案デアリマシテ、是ハ土地ノ所有者ヲ保護イタシマスル爲ニ必要ナル規定ト信ジマスルノデ、其趣旨ニ對シマシテハ同意ヲ表シテ置キマシタ

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第九、質屋取締法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

質屋取締法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十三年三月十二日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

質屋取締法中左ノ通改正ス

第十六條中「贓物」ヲ「盗品」ニ改ム

○伯爵松平頼壽君 是同様、政府ノ御意向ヲ伺ヒタウゴザイマス

〔政府委員有松英義君演壇ニ登ル〕

○政府委員(有松英義君) 本案ハ質屋取締法第十六條ノ改正デアリマス、現行法ニ據リマスルト、遺失品若クハ贓物ヲ質屋ガ質ニ取ッテ居リマスルトキニハ警察官ハ職權ヲ以テ之ヲ徵收イタシマシテ被害者ニ還付スルコトガ出來マスノデゴザイマス、今回ノ改正ハ贓物ノ文字ハ意義ガ廣汎ニ失スル故ニ、贓物中ノ盗品ニ限ルト云フ改正デゴザイマス、是ハ警察官ノ職權ヲ幾分カ制限スルコトニ相成リマスルナレドモ、現今殊ニ昨年以來、警察官ノ取扱ッテ居リマスル實際ハ、贓物中ニ於テモ盗品ニ非ザレバ徵收ヲ致サヌコトニ相成ッテ居リマスノデゴザイマス、是ハ民法ノ精神カラ致シマシテモ盗品ニ限ルノガ相當デアリマスルノデ、此改正ニ付キマシテハ取締上實際ニ何等影響ヲ受ケマセヌノデアリマス、即チ目下取扱ッテ居ル通りノコトヲ法律ニ表スト云フニ過ギマセヌノデアリマスルガ故ニ、政府ハ衆議院ニ於テ同意ヲ致シマシタノデゴザイマス、質屋取締法ノ改正ニ付キマシテハ、毎年議會ノ問題ニ相成リマシテ、昨年モ當院ニ於テ御否決ニ相成リ、今年モ昨年御否決ニ相成リマシタ通りノ案ヲ衆議院ニ於テ提出イタシマシタノデゴザイマス、其案ハ第五條ニ於テ、質置主ガ質札若クハ通帳ヲ質屋ヨリ交付ヲ受ケル權利ヲ有ッテ居リマスル規定ヲ變ヘマシテ、詰リ條文ニハ質屋ガ交付スル義務ヲ有ッテ居ル、交付シナケレバナラヌ規定デアリマス、ソレヲ質置主ハ任意ニ交付ヲ受ケナクテモ宜シイ、質置主ノ同意ガアルナラバ交付シナクテモ宜シイト云フノガ改正ノ一ツ、ソレカラ第二ハ第十六條ニ於キマシテ遺失品若クハ贓物ヲ警察官ガ徵收スルニ付イテハ占有者ノ承諾ガアルカ、然ラザレバ檢事ノ指揮ヲ受ケナケレバナラヌト云フノデゴザイマシタ、此二ツノ改正ニ付キマシテハ、昨年貴族院ニ於キマシテ政府ガ反對ノ理由ヲ申上ゲテ置キマシ

タト同一ノ理由ニ依リマシテ、衆議院ニ於テ反對ヲ致シマシタ、其結果、提出ノ法案ハ唯今問題ニナッテ居リマスルガ如キ案ニ修正ニナリマシテ、最早政府ニ於テ不同意ヲ申ス必要ガゴザイマセヌニ依ッテ同意ヲ致シマシタ次第デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十、行政執行法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

行政執行法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十三年三月十二日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

行政執行法中左ノ通改正ス

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治愈ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

○伯爵徳川達孝君 此案ニ付イテモ政府ノ御意向ヲ承リタイト存ジマス、是ハ衛生上又社會ノ風紀上ニ關係スルコトデアリマスカラ、委シク御説明ヲ…御意向ヲ承リタウゴザイマス

〔政府委員窪田靜太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(窪田靜太郎君) 現行ノ行政執行法第三條ニ於キマシテ密賣淫ノ罪ヲ犯シタ者ニ對シマシテハ其健康ヲ診斷イタシマシテ、必要ト認メタ時分ニハ強制シテ病院ニ入ラシメルコトヲ得ルト云フ規定ガゴザイマス、此規定

ヲ稍、擴張シ又治療ノ強制、取締ノ方法ヲ周密ニ致シマシタノガ本案ノ趣旨
デゴザイマス、其擴張イタシタ點ハ、本案デハ密賣淫犯者ノ外ニ尙ホ其前科
者、前科者ニシテ而シテ其後ニ至ッテモ尙ホ密賣淫ノ常習ガアルト認メラル
、者ニ對シテモ健康診斷ヲ行フコトガ出來ルト云フコトニ致シマシタ、ソレ
カラ尙ホ又有毒者……病氣ニ罹ッテ居ル者ガゴザイマシタトキニ、其者ニ對
シテ病院ニ強制シテ入ラシメルコトガ出來ルハ勿論、之ニ自宅治療若クハ其
他ノ場所デ治療ヲスルコトヲ許シマス場合ニ於テモ、監督上外出ヲ制限ヲ致
ストカ、或ハ居リマス場所ヲ特定シテ、其他ノ場所ニハ居ラシメナイト
云フヤウナ風ニ本案デ致シマシタ、デ要スルニ現在ノ密賣淫取締、花柳病豫
防ニ對シマシテ之ヲ周到ニ致シマス所ノ趣旨デゴザイマスノデ、政府ハ之ニ
同意ヲ致シマシタノデゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十一、明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ
被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案
右本院提出案及送付候也
明治四十三年三月十二日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

- 第一條 明治三十七八年日露戰役ノ際本邦船舶又ハ韓國城津方面ニ於ケル
帝國臣民ノ直接損害ヲ被リタル者ニ對シテハ本法ニ依リ救恤金ヲ下付
ス
- 第二條 前條救恤金ノ總額ヲ二十五萬圓トス
- 第三條 救恤金ハ額面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ
五十圓未満ノ金額ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス
- 第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依ル給付ニ必要ナル國債證券ヲ發行スルコト
ヲ得
- 第五條 本法ニ依リ救恤金ヲ受ケムトスル者ハ明治四十三年七月三十一日
迄ニ申請スヘシ

〔政府委員石井菊次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(石井菊次郎君) 本案ニ對スル政府ノ意向ヲ申上ゲ置キタイト存
ジマス、御承知ノ通り明治三十七八年戰役ノ爲ニ損害ヲ被ムリタル者ノ救恤
ノ件ニ關シテハ、幾たびカ請願ガゴザイマスシ、又建議案モゴザイマスシ、
結局二十五議會ニ於キマシテ、明治三十七八年戰役ノ爲ニ損害ヲ被ムリタル
者ニシテ露領亞細亞、滿洲及韓國義州方面ニ於テ引揚ノ爲ニ被ムリタル損害
ニ限ッテ救恤ヲ行フト云フコトニ可決イタシマシタ次第デゴザイマス、其法
律案ノ議セラル、トキニ韓國ノ單リ義州方面ノミナラズ、其他ノ部分及船舶
ト云フモノモ範圍ヲ廣メマシテ救恤ノ範圍ニ加ヘルト云フ議ガゴザイマシタ
ノデゴザイマス、サウシマス自然、他ノ方面ハ戰爭開始ノ後ニ損害ヲ被ム
リマシテ、是等ヲ救恤ノ範圍ニ加ヘマスレバ、單リ韓國ノミナラズ内國ニ於
テモ損害ヲ被ムタル者ガ多クアル、之ヲ除イテ韓國ニ居ル者ダケヲ救恤ス
ルノハ彼是權衡ヲ得ナイト云フ理由ニ基キマシテ、韓國ニ於テモ戰爭開始前
ニ行ッテ居ッテ引揚ノ爲ニ損害ヲ被ムリタル者ト云フモノニ限ル次第デゴザ
イマス、政府ハ此範圍ヲ現行ノ法律ノ通りニ局限スルコトガ最モ公平ナコト
、思ヒマシテ、衆議院、貴族院ニ於テ可決サレタ法律案ニ全然同意シタ次第デ
アリマス、本案ハソレヲ翻ヘシマシテ更ニ船舶及韓國ニ於テ城津方面ニ在留
スル所ノ帝國臣民ノ損害ヲ救恤シヤウト云フ案デゴザイマスガ、本案ハ前議
會ニ於テ議決セラレタ所ノ精神ヲ沒却スルモノト存ジマシテ、昨年此法律ヲ
規定シテ以來、新ニ城津在留ノ臣民ニ對シテ救恤ヲ行ハナケレバナラスト云
フ新事實ノ發生シナイ所カラ、此法律ノ必要ヲ認メマセス、從ッテ政府ハ此
法律案ニハ反對デゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二、豫約出版法案、衆議院提出、第
一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

豫約出版法案

右本院提出案及送付候也

明治四十三年三月十二日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

豫約出版法

第一條 代金ノ全部又ハ一部ヲ前收シ文書圖畫ノ頒布ヲ豫約スル出版ニ對シテハ出版法ニ依ルノ外尙本法ヲ適用ス

第二條 發行者ハ左ノ事項ヲ記載シ內務大臣ニ届出ツヘシ

一 題號

二 發行ノ年月日及順次發行ノ場合ハ其ノ豫定年月日

三 著作者ノ氏名

四 内容、製本及紙數ノ概要

五 豫約定價及代金前收ノ方法

六 發行所

七 發行者ノ氏名、生年月日、法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

前項ノ届出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ豫約手續ニ著手ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三條 豫約出版物ニ付出版法ニ依リテ爲ス出版届書ニハ第二條ニ依リテ届出ヲ爲シタルコト及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四條 發行者又ハ其ノ法定代理人ハ第二條ノ届出ト同時ニ保證金トシテ管轄地方官廳ニ左ノ金額ヲ納ムヘシ

一 豫約定價十圓未満ハ金五百圓

二 豫約定價十圓以上ハ金千圓

保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五條 發行所、發行者ノ法定代理人、發行者法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ニ變更アリ又ハ發行者能力ヲ失ヒ、死亡若ハ解散シ又ハ死亡若ハ解散ニ因リ法律上豫約出版ヲ廢絶スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ

十日以内ニ內務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人、其ノ死亡ニ係ルトキハ相續人、相續人定マラス又ハ相續人ナキトキハ戶主若ハ同居ノ親族、法人ノ合併ニ因ル解散ニ係ルトキハ其ノ法人ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人、破産ニ因ル解散ニ係ルトキハ破産管財人ヨリ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 法律上已ムヲ得サルニ非サル豫約出版ノ廢絶又ハ第二條第一項第

一號乃至第五號ノ事項ノ變更及死亡若ハ解散ニ因ラサル發行者ノ變更ハ新舊發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ其ノ事由ヲ具シタル書面ヲ以テ豫メ管轄地方官廳ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ハ豫約當事者ノ解除權行使ヲ妨ケラルルコトナシ

第七條 相續人又ハ法人ノ合併ニ因リ其ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人ハ

豫約出版ニ關スル權利及義務ヲ承繼ス

第八條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行者變更ノ場合ニ於テ承繼發行者之ヲ承繼ス

第九條 保證金ハ適法ニ豫約出版ヲ廢絶シ又ハ完全ニ豫約ヲ履行シタル後ニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ豫約解除若ハ豫約不履行ニ因

リ代金返還若ハ損害賠償ヲ命スル判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ罰金又ハ刑事訴訟費用ヲ完納セサルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十條 發行者又ハ其ノ法定代理人ハ保證金ノ關額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スヘシ

第十一條 第二條、第四條ノ規定ニ依ラスシテ豫約手續ニ著手シ又ハ第六條若ハ第九條ニ違反シ又ハ管轄地方官廳ノ督促ヲ受ケタル後七日以内ニ

保證金ヲ填補セサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條又ハ第五條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ前條ノ犯罪ニ之ヲ準用ス

第十三條 本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖畫ニ之ヲ適用セス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十三、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十四日

右特別委員長

伯爵 松平 賴壽

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵松平賴壽君演壇ニ登ル〕

○伯爵松平賴壽君 裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告イタシマス、此委員會ハ昨日委員會ヲ開キマシテ正副委員長ノ互選ヲ致シ、引續キ會議ニ移リマシタノデアリマス、此本案ハ誠ニ先ヅ簡單ト申シテ宜イダラウト存ジマスルガ、第一ニ政府委員ノ説明ヲ請ヒマシタノニ、政府委員ノ申サレマス所ニハ、此表ニゴザイマス通り岩代ノ國ノ安積郡ト云フ郡ガアリマスルガ、此安積郡ト云フ郡ノ一部分ガ……若松ノ裁判所ノ一部ニ村ノ四ツガ這入ッテ居ルノデゴザイマス、其村ノ全部ヲ岩代ノ國ヘ一緒ニシテ郡山ノ管轄ニシヤウト云フノデアリ、又此ノ田村郡ト云フノモ分レテ居ッテ平ノ區裁判所ニ田村郡ノ町及村ガ這入ッテ居ッタノヲ郡山ノ方ヘ一緒ニシヤウト云フ法案デアリマス、政府ノ意向ト致シマシテハ此本案ハ政府ハ別段異論ハ無イノデアリマシテ、政府デモ段々此交通機關ガ出來、或ハ總テノ人情風俗等ニ鑑ミマシテ行クハ此區裁判所ナリヲ以テ地方裁判所ノ管轄ヲ變ヘナケレバナラスト云フコトガアッタノデアリマス、幸ニシテ此案ハ政府ト極合致シテ同意サレルコトデアルカラシテ、政府ニ於テハ異論ハ無イト云フコトデアリマス、ソレデ其他、委員カラシテイロハ質問ガアリマシタガ、唯位置ニ付イテノ質問ナリ、又或ハ登記トカ或ハ裁判事件ニ付イテノ質問モゴザイマシタガ、別段大シテ此法案ニ付イテ不都合ナコトハ無イノデアリマシテ、ソレデ政府モ同意サレマシタニ付キマシテハ、委員會デハ、全會一致ヲ以テ此法案ニ賛成ヲ致シ、之ヲ可決イタシタ次第デアリマスカラ其段御報告イタシマス

〔伯爵松平賴壽君演壇ヲ降ル〕

○伯爵松平賴壽君 本案ハ誠ニ簡單ナ議案デアリマスルカラ讀會省略ヲサレムコトヲ希望イタシマス

○子爵本多忠敬君 讀會省略賛成

○子爵久留島通簡君 讀會省略賛成

○子爵本莊壽巨君 讀會省略賛成

○子爵大久保忠順君 讀會省略賛成

○男爵淺野守夫君 讀會省略賛成

○石井省一郎君 讀會省略賛成

○伯爵大原重朝君 讀會……

○議長(公爵德川家達君) 大原伯爵ハ何デスカ

○伯爵大原重朝君 讀會省略賛成

○男爵高木兼寛君 讀會省略賛成

○伊澤修二君 讀會省略賛成

○谷森眞男君 讀會省略賛成

○議長(公爵德川家達君) 松平伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガゴザイマシタ、松平伯爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 本案御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十四、貴族院伯子男爵議員選舉規則中投票ニ關スル規定改正建議案、子爵會我祐準君發議、會議

〔子爵會我祐準君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 今朗讀ヲサセマス

〔東久世書記官朗讀〕

貴族院伯子男爵議員選舉規則中投票ニ關スル規定改正建議案
右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治四十三年三月十一日

發議者 子爵會我 祐準 賛成者 公爵二條 基弘

外三十九名

貴族院議長公爵德川家達殿

貴族院伯子男爵議員選舉規則中投票ニ關スル規定改正建議

貴族院伯子男爵議員選舉規則ハ今尙連記投票ノ制ヲ採用セリ是レ近時ノ進歩セル選舉法ノ主義ニ反スルモノニシテ多數ノ一團ニ議員ノ全部ヲ獨占セシメ其ノ他ノ少數ノ同爵者ヨリハ其ノ意見ヲ代表スヘキ議員ヲ選出スル能

ハサラシメ同爵者ノ互選上甚シキ偏頗ノ結果ヲ見ルニ至ル加之有爵者ノ選舉ニ於テ弊害續出スルハ主トシテ茲ニ基因スルモノト云フヘシ政府ハ速ニ之ヲ改正シ最適當ナル投票方法ヲ規定セラレムコトヲ望ム仍テ茲ニ之ヲ建議ス

理由書

現行貴族院伯子男爵議員選舉規則ハ明治二十二年ノ制定ニ係リ連記投票ノ制ヲ襲用シタリト雖此ノ制ニ依レハ其ノ弊害甚多ク例ヘハ同爵者中選舉權ヲ有スル者ノ半數ヨリ僅ニ一名多キ一團ハ議員ノ全數ヲ其ノ派ヨリ占有スルヲ得ヘク之ニ反シ半數ヨリ僅ニ一名少キ他ノ一團ハ一人ノ議員ヲモ自派ヨリ出スコト能ハスシテ少數者代表ヲ絶對ニ拒止スルモノト云フヘシ斯ノ如キハ衆議院議員府縣會議員及郡會議員等ノ選舉ニ於テ夙ニ少數者代表ノ主義ヲ採用シタルモノト權衡ヲ得サルノミナラス頻年有爵者議員選舉上ニ續發スル惡弊ノ主因亦茲ニ存在ス故ニ速ニ單記投票若ハ其ノ他少數者ヲ代表スルニ足ルヘキ最適當ナル投票方法ヲ制定シ之ヲ實施スルノ必要アルヲ認ム是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

〔子爵會我祐準君演壇ニ登ル〕

○子爵會我祐準君 諸君、本員ハ此建議案ヲ提出シマシタ理由ヲ唯今ヨリ陳述イタシマス、貴族院伯子男爵議員選舉規則、此第十條ノ第二項ニ「投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ」斯様ニ決メラレテ居リマス、此建議案ハ此第二項ヲ修正シタイト云フノデアリマス、唯今朗讀シマシタ即チ「列記シ」トアル此連記投票法ヲ止メタイト云フノデアリマス、而シテ最適當ナル投票方法ニ改正セラレムコトヲ希望スルノデアリマス、此連記ヨリ生ジマス所ノ弊害ヲ同時ニ又除キタイト云フノニ在ルノデアリマス、主眼ハ全ク第二項ヲ改メテ連記ヨリ生ズル所ノ弊害ヲ全ク除去シタイ、斯様ナ考ヘナノデアリマス、御參考ノ爲ニ我邦ニ於ケル議員選舉法ノ歴史ヲ少シ陳述イタシマス、先ヅ明治二十一年四月ニハ市制……市會議員選舉規則ガアリマス、是ハ連記デアリマス、同ジク明治二十一年四月、町村會議員ノ選舉ノ規則ガアリマス、是モ連記デアリマス、ソレカラ第三ニハ明治二十二年二月ノ公布ニ係ル衆議院議員選舉規則ガアリマス、是モ連記デアリマス、又同ジク明治二十二年六月、貴族院伯子男爵選舉、即チ此問題ニナッテ居ル是ガ發布セラレマシタ、ソレカラ又二十三年五月ニハ府縣會議員選舉規則

ガ出マシタ、是モ連記デアリマス、ソレカラ二十三年五月、同月デス、郡會議員ノ選舉規則ガ出マシタ、是モ連記デアリマス、三十年二月發布ニナリマシタ北海道區會議員、是モ連記デアリマス、ソレカラ三十年五月北海道一級町村會議員選舉規則ガ出マシタ、是モ連記デアリマス、以上八ツノモノ即チ明治二十一年ヨリ三十一年ノ間ニ制定セラレマシタ議員選舉規則ト云フモノハ皆連記デアリマス、而シテ明治三十一年ニハ選舉ニ關スル何等法律規則ノ發布ハゴザイマセヌ、明治三十二年以後ハ如何ナル有様デアリマスカ、選舉ニ係ル規則ガ規定サレタカト云フコトヲ調べテ見マスレバ、先ヅ三十二年二月ニハ府縣會議員ノ選舉法ガ連記デアリマス、是モ連記デアリマス、同年三月ニハ郡會議員ノ選舉法デアリマス、是モ連記デアリマス、同年三月ニマシタ、三十三年三月ニハ衆議院議員選舉法ノ連記デアリマス、同年三月ニマシタ、三十五年二月ニハ北海道二級町村會議員選舉、是モ單記デ初メテ出マシタ、初メテ出マシタガ、是ハ初メヨリ單記デ出マシタ、四十一年三月公布ニナリマシタ沖繩縣區會議員選舉、是モ單記デ出マシタ、斯ノ如キ歴史ニナリマス、因ッテ考ヘマスルニ、三十二年以後ト云フモノハ……三十二年以後ノ制定ト云フモノハ悉ク單記デアリノミナラズ、既ニ以前ニ連記デアッタノヲモ、今右申シマシタ通り改正ニナリマシタ、ソレデ判然ト三十年以前ト……三十一年ハ置イテ、三十二年以後ト云フモノハ日本ニ於ケル選舉規則ト云フモノハ、スッカリ判然三十一年ヲ以テ界ヲシマシテ、三十年前ト三十二年後ニ分レテ居ルノデアリマス、ソレデ唯單リ此貴族院ノ伯子男爵、是ハ連記デ今ニ存在シテ居ル重モナルモノデアリマス、是ガ存在シテ居ルノミデアリマシテ、而シテ比較的下級ノ北海道區會議員、町村會議員、北海道一級町村會議員、是等ノモノハ、連記デ存在シテ居リマス、ソレカラ前ニ申シマシタ衆議院ヲ初メ府縣會ノ如キ郡會ノ如キ、悉ク單記ニ改メラレマシタ、沖繩縣區會議員ノ如キニ至ルマデモ、三十二年後、即チ四十一年發布ニ係ルモノハ單記ニナッテ居リマス、是ニ由ッテ之ヲ觀マスレバ、連記ハ即チ日本ニ於ケル舊式デ、單記ハ即チ新式デアルコトハ甚ダ明瞭ノモノデアリマス、此建議案ノ初メニ「今尙連記投票ノ制ヲ採用セリ」ト書キマシタ、「今尙」ト云フ意味ハ即チ茲ニアルノデ、伯子男爵ノハ舊ニ依ッテ改メラレマセヌ、連記ノ文字ハ……「今尙」ト書キマシタノハ、即チ此意味デアリマス、以上ハ選舉法ノ歴史ニ過ギマセヌガ、此現在法ナル連記法ガ何故ニ修正ヲ要スル

ヤ、又如何ニ缺點多キカ、之ヲ少シ茲ニ陳述シマス、是ガ即チ此建議案ノ趣意ナシデアリマス、其理由ト申シマスルモノハ簡明……甚ダ單簡、甚ダ明瞭デ、決シテ是ハ多言ヲ要シナイノデアリマス、唯多數ノ團體ガ其同爵者中ヨリ出スベキ所ノ議員ノ全部ヲ獨リデ占メテ、サウシテ他ノ少數ノ團體ハ全ク之ニ反シテ唯一名ノ議員ガモ出シ能ハヌト云フ、此一言ニ歸スルノデアリマス、此弊害甚シキト云フコトヲ茲ニ書イテハアリマスガ、併シソレデハ餘リ單簡ニ過ギマスルニ依ッテ、今少シク之ヲ詳ニ説イテ見マスレバ、例ヘバ茲ニ三百人ノ有權者ヲ有シテ居ルトシテ、三百人ノ有權者ニ一ツノ何爵デモ宜シイ、譬ヂヤニ依ッテ、同爵者ガアルトシマス、併シ此同爵者中ヨリ六十名ノ議員ヲ出スコトニナッテ居ルト……是モ假定ヲ致シマス、三百人ノ同爵者中六十人ノ議員ヲ出スモノガ茲ニ一ツアル、然ルニ三百人ノ同爵者中ノ甲乙二團ノ……二ツノ團リニ分レテ相爭フニ當リマシテ、一方ハ百五十一人ノ人間ヲ有シ、他ノ一方ハ百四十九人シカナイト致シマス、然ルニ實際ハ百五十一人ト百四十九人、僅カ二人ノ違ヒデアリマス、併シ是デ投票ヲ致シタトシマスレバ、連記法ノ結果トシテ、必ズヤ二人多イ方ノ團體ガ六十人ノ全部ヲ占領……一方ノ仲間ハ六十人ノ議員ヲ出シ得ルコトニナリ、又僅ニ二人少ナカッタ所ノ一方ハ一人ノ議員ヲモ出ダシ得ナイ、斯様ナコトニナリマスコトハ明カナコトデ、瞭トシテ火ヲ睹ルガ如クデアリマス、斯ノ如キハ實ニ偏頗ノ甚シキモノト言ハネバナリマセヌ、不公平ノ最モナルモノト言ハネバナリマスマイ、是即チ主文タル茲ニ書キ置キマシタ所ノ此「是レ近時ノ進歩セル選舉法ノ主義ニ反スルモノニシテ多數ノ一團ニ議員ノ全部ヲ獨占セシメ其ノ他ノ少數ノ同爵者ヨリハ其ノ意見ヲ代表スヘキ議員ヲ選出スル能ハサラシメ同爵者ノ互選上甚シキ偏頗ノ結果ヲ見ルニ至ル」ト書キマシタノハ全ク此ノ所デアリマス、果シテ然リトシマスレバ、如何ナル方面カラ之ニ觀察ヲ下シテ見マシテモ、決シテ此現在法ガ善良ナリトハ言ハレマセヌ、又完全ナリトハ言ハレマセヌ、缺點ナシトハ決シテ言ハレマスマイ、此建議ノ趣意ハ全ク茲ニ在ルノデアリマス、ソレヨリシテ第二ノ要點タル本文ノ「加之」以下ノ所ニ付イテ少シ申上ゲマス、「加之有權者ノ選舉ニ於テ弊害續出スルハ主トシテ茲ニ基因スルモノト云フヘシ」此事ニ付イテ少シ申シマスレバ、此不完全ナル選舉法ガ現在シテ居ル爲ニ、一面ニハ各三爵ノ同爵者中ニ於テ選舉上ニ關シテ種々ナル弊害ガ續出イタシマシテ、時ニ或ハ權謀術數、是等ハマダ

シモノコト、惡辣手段トカ、背德トカ、或ハ友ヲ賣ッタトカ、仲間ヲ賣ッタトカ、實ニ口ニ言フニ忍ビナイ惡評風説ヲ流傳スルニ至リマシテ、華族ノ體面上、品行上、實ニ長歎息スベキモノデアリマス、又是ガ終ニ延イテ同族間ノ軋轢不和ヲ釀成スルニ至リマス、今日既ニ然リ、尙ホ數年斯ノ如クニシテ經過シタナラバ、愈益増長シテ終ニ底止スル所ヲ知ラズト云フコトニナルニ至ラウト思フノデアリマス、決シテ杞憂デハナイ、寧ロ是ハ今日速ニ濟フベキ焦眉ノ急ト本員ハ認メルノデアリマス、是ハ無論諸君、殊ニ有權者諸君ハ特ニ御熟知ナサレルコトデアリマス、又其ニ憂ヘラレル所デアリマス、併ナガラ今日ノ勢ヒ如何トモスル能ハザル所ノモノハ是レ全ク現行ノ選舉法ノ存在シテ居ルノニ基クノデアリマス、抑、華族トシテ世ニ立ツ以上ハ、ソレ相應ノ名譽品行ト云フモノヲ保ッテ行カナケレバ人ノ尊崇ヲ受ケルコトハ出來マセヌ、人自ラ侮ッテ而シテ後人ノ之ヲ侮ルデ、華族自ラ其名譽ヲ傷ケ品行ヲ破ッテ世人ノ尊崇ヲ希望スル如キハ謂ハユル木ニ縁ッテ魚ヲ求ムルヤウナモノデ、間違ッタ話デアラウト思ヒマス、實ニ今日選舉法ト云フモノガ伯子男三爵者ヲ驅ッテ、知ラズ識ラズ斯ノ如キ不都合ナル、不面目、不名譽ナル地位ニ趣カシムルノデアアルト斷言スルヲ憚リマセヌ、若シ此連記法ニシテ一タビ廢止セラレタナラバ、華族同爵間ノ團體、現在、政黨ニアラズ、主義ニアラズ、事實上選舉競爭ヲ唯一ノ目的トシテ成立ッテ居ル所ノ同男爵者間ニアル各團體ハ如何ナル有様ニナルデアラウカト推測シテ見マスレバ、果シテ連記ガ止ミマシタ日ニハ最早必シモ同爵者中ノ過半数ヲ占ムル必要ハナイノデス、連記時代ト違ヒマスニ依ッテ果シテ過半数ヲ必シモ占メバナラヌ必要ガナイト云フコトニナリマシタナラバ、此團體ノ競爭ノ熱度ト云フモノハ忽チニ冷却シマス、是ハ分リ切ッタコトデアリマス、例ノ權謀術數トカ惡辣手段トカ背德行為トカ云フヤウナコトハ一朝ニシテ是ハミゴトニ除キ去ラル、モノト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、此連記法ガ廢止セラレマシタ日ニハ假ニ平均五人ニシテ一人ノ議員ヲ出スモノトシマスレバ、百五十人ノ團體ハ三十人ノ議員ヲ出スノデ、四十人ノ團體ハ八人ノ議員ヲ出ス、二十人ノ團體ハ四人ノ議員ヲ出ス、斯様ナ譯ニナッテ大小ノ團體ガ各、其程度ニ應ジテ相當ナル議員ヲ出ス、即チ少數者ヲ代表スル者ヲ出スコトガ出來テ、偏頗ノ憂モ無ク、又專横ノ害モ無ク、至平至公、各、其所ヲ得テ同族間ノ軋轢若クハ惡弊ト云フヤウナモノハ根柢ヨリ除キ去ラル、コトハ明カナコト、深ク信ズルノデアリマ

ス、從テ又此法ニ依ッテ……連記ニ依ラザル所ノ法ニ依ッテ選舉セラル、所ノ議員ハ益々德望高キ人トナルデアラウト云フコトヲ私ハ信ズルノデアリマス、終リニ臨ミマシテ此建議案ノ末文ニ「最適當ナル投票方法ヲ規定セラレムコトヲ望ム」ト書イテ置キマシテ、單ニ單記ト之ヲ明記シマセヌデアッタ所ノ所以ヲ少シ申上ゲマス、此案ヲ提出スルニ付キマシテハ、斯ノ道ニ精シキ所ノ人ニモ相談ヲ致シマスシ、又學者等ニ取調べモ御頼ミシタコトモアリマス、然ル所、今ヤ歐羅巴ニ於テハ、種々進歩シタル選舉法ト云フモノガ研究セラレ或ハ實行セラレテ居ル、單記ナルモノモ謂ハユル單純ナル單記法ヨリモ尙ホ進歩シタル比較的完全ナル方法モアル様デアリマス、又單記ニアラズシテ少數者ヲ代表スル所ノ事實ヲ舉グル方法モアルト云フコトデアリマス、ソレハイロ／＼アル趣デアリマス、聚積記載法トカ云フヤウナモノモアル趣デアル、又昨今極新シイ所ノ、英吉利ノ議員即チ上院ノ選舉法デ彼レ此レ議論モ起ッテ居リマスガ、是等ノ世襲貴族ヨリ其代表者ヲ選出スル所ノ方法ハ團體ノ各員ヨリ選出スル所ノ議員ノ定數ト同數ノ投票ヲナス權ヲ有シ、自己ノ選舉セムト欲スル所ノ候補者一人若クハ數人ニ對シテ議員ノ數ヲ投票ヲ爲スコトヲ得セシム、是ハ一人デ幾人モ何ボモ、單記ニアラズ併ナガラ現今ノ様ナ連記ト違ッテ、一人ノ人ガ一人ノ議員ヲ出スニモ十票モ二十票モ三十票モ列ベテ書イテ宜イ、斯ウ云フコトニナッタモノダサウデアリマス、是ハ委シイコトハ其學者ノ人ガ論ジテ居ラレマシテ、私ドモニハ到底委シイ御話ハ出來マセヌ、ソレデス様ニ書キマシテ、最モ宜シイ方法ニナシタイト書キマシタノハ十分ニ茲ニ調査ノ餘地ヲ存シタ積リデアリマス、十分ノ調査ヲ以テ適當ナル方法ニ改メラレ、バ、強チ必シモ現今行ハル、單記法ヲ直チニ其儘ニ伯爵子男爵ノ選舉ニ採用サレタイト云フ趣意デナイコトヲ茲ニ明ニ書キマシタノデアリマス、此建議案ノ提出ノ趣意ハ是デ盡キマシタ、此建議案ハ何卒即決ニ付サズシテ一應委員ニ付セラレテ、十分ニ審議ヲ遂ゲラレムコトヲ偏ニ希望スルノデアリマス、ドウカ諸君ニ於テモ此段御諒察アラムコトヲ願ヒマス

○男爵小澤武雄君 本案ヲ委員ヘ付託ニナリマシテ慎重ニ審査ヲ遂ゲラレムコトヲ望ミマス

○男爵茨木惟昭君 委員付託ニ賛成

○富井政章君 特別委員付託ニ賛成

○男爵園田安賢君 賛成

○桑田熊藏君 賛成

○子爵三島彌太郎君 委員付託ニ賛成イタシマス

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ本建議案ヲ特別委員ニ付託スルト云フ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀イタサセマス

〔太田書記官長朗讀〕

警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案特別委員

男爵原田 一道君 子爵裏松 良光君 子爵野宮 定毅君

男爵野村 素介君 男爵本多 副元君 男爵南 光利君

山田 爲暄君 平山 靖彦君 村岡淺右衛門君

銃砲火藥類取締法改正法律案特別委員

伯爵川村 鐵太郎君 子爵持明院 基哲君 子爵伊集院 兼知君

男爵相浦 紀道君 男爵新田 忠純君 男爵中島 久万吉君

馬屋原 二郎君 清瀬 善三君 加藤 宇兵衛君

耕地整理法中改正法律案特別委員

伯爵松平 賴壽君 子爵松平 乘承君 子爵松平 直平君

男爵野田 豁通君 男爵金子 有卿君 男爵目賀田種太郎君

橋本 雄造君 淺野 長太郎君 五十嵐 敬止君

災害地租特別處分法案特別委員

伯爵清棲 家教君 子爵藤井 行徳君 子爵高野 宗順君

男爵藤枝 雅之君 男爵目賀田種太郎君 西村 亮吉君

關 清 英君 千頭 清臣君 本間 千代吉君

沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案特別委員

伯爵大原 重朝君 子爵板倉 勝達君 子爵久留島 通簡君

男爵奈良原 繁君 小牧 昌業君 男爵高千穂 宣麿君

男爵毛利 五郎君 谷森 眞男君 秋月 新太郎君

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案特別委員

伯爵柳澤 保惠君 子爵前田 利定君 男爵茨木 惟昭君

德久 恆範君 男爵沖 守 固君 男爵安場 末喜君

男爵長松 篤葉君 中島 永元君 山田 春三君

立木ノ先取特權ニ關スル法律案特別委員

伯爵寺島 誠一郎君 子爵松平 親信君 男爵四條 隆平君

古澤 滋君 男爵波多野 敬直君 原 保太郎君

石渡 敏一君 高木 豐三君 辰巳 樽太郎君

質屋取締法中改正法律案特別委員

子爵高木 正善君 子爵本莊 壽巨君 男爵島津 珍彥君

男爵平野 長祥君 男爵北大路 實信君 森 山 茂君

湯地 定監君 兒玉 利國君 並木 和一君

行政執行法中改正法律案特別委員

子爵細川 立興君 男爵德川 厚君 三宅 秀君

馬屋原 彰君 安立 綱之君 兒玉 淳一郎君

岩村 兼善君 鳥越 貞敏君 伊藤 長次郎君

明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ蒙リタル者ノ救恤ニ關スル法律案特別委員

伯爵中川 久任君 子爵樋口 誠康君 子爵青木 信光君

男爵岡内 重俊君 男爵外松 孫太郎君 富田 鐵之助君

古市 公威君 室田 義文君 廣海 二三郎君

豫約出版法案特別委員

伯爵德川 達孝君 子爵堤 功 長君 男爵辻 新次君

田邊 輝實君 男爵小 原 適君 澤柳 政太郎君

木場 貞長君 伊澤 修二君 森 廣三郎君

貴族院伯爵子男爵議員選舉規則中投票ニ關スル規定改正ノ建議案特別委員

侯爵花山院 親家君 子爵曾我 祐準君 黑岡 帶刀君

男爵久保田 讓君 山縣 伊三郎君 男爵吉川 重吉君

富井 政章君 石渡 敏一君 鎌田 榮吉君

○議長(公爵德川家達君) 明十六日ノ議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御通知ニ及
ビマス、今日ハ是デ散會ヲ致シマス

午前十一時二十四分散會